

檀信協だより

発行 静岡県中部檀信徒協議会

Vol.23

平成25年9月1日発行

編集 静岡県中部宗務所教化センター
http://www.myouhou.com/

平成25年度 檀信徒協議会総会アンケート報告

回答者数は70名、紙面の都合上抜粋しての報告となります。

●菩提寺には檀信徒以外の方が
足を運ぶ機会がありますか？

	回 答	回答数	%
1	は い	45	64%
2	いいえ	13	19%
3	わからない	12	17%

●家庭内で信仰の継承につとめていますか？

	回 答	回答数	%
1	は い	58	83%
2	いいえ	7	10%
3	わからない	5	7%

●後継者は自分と同じようにお寺を護ってくれると
思いますか？

	回 答	回答数	%
1	は い	50	71%
2	いいえ	2	3%
3	わからない	18	26%

●自分自身の葬儀について考えたことがありますか？

	回 答	回答数	%
1	は い	42	60%
2	いいえ	19	27%
3	わからない	9	13%

●家族葬とはどのような葬儀だと思いますか？

	回 答	回答数	%
1	家族のみ	30	43%
2	親族を含めた小規模	34	49%
3	小規模	3	4%
4	わからない	3	4%

●ご自身の葬儀を家族葬でとりおこなってほしいと
思いますか？

	回 答	回答数	%
1	は い	12	17%
2	いいえ	44	63%
3	わからない	14	20%

これからの寺院に何を望みますか？（自由にお書き下さい）

- ・感銘を受けるような法話や地域活動の推進
- ・次世代育成に必要な資料を作って欲しい
- ・合掌の心を広めてほしい、寺子屋活動の推進
- ・誰からも親しまれる開放された寺院になつてもらいたい
- ・音楽会、講演会、展覧会等、一般社会に開放し、人々が集まる会場
- ・人生の良き相談相手になつて欲しい。
- ・特に若い人の信仰を高める場であつて欲しい
- ・仏教、お寺の維持のみでなく、広く一般との交流、布教が必要
- ・葬儀の費用が増大してきている。どの寺院でも通夜、葬儀とできれば低額費用で済み、葬儀会館の活用も不要となる
- ・本堂の耐震工事をして、災害時には避難所として提供し、地域との結びつきを強めていくこと

宗務所長のあいさつ

静岡県中部宗務所長
常泉寺 貫名 英舜



宗務所長
貫名 英舜

合掌 皆様には日頃各菩提寺の護持丹精にご精進いただき、また、宗門の推し進める宗門運動(立正安国・お題目結縁運動)の推進にご理解とご協力をたまわり、まことにありがとうございます。おかげさまで、宗門運動は着実な成果を上げつつあります。

この運動は、「いのちの絶対尊重」を基調テーマに、日蓮聖人の願ひである「立正安国」の実現、安穏な社会作りを目的とする信行活動です。今年の重点テーマは「合掌」です。この運動の主眼は、一人でも多くの人たちにお題目のありがたさを伝え、ともにお題目を唱える仲間を増やして二十一世紀の宗門の繁栄につなげようとするもの

です。期間は、平成三十三年(二〇二一)の日蓮聖人ご降誕八百年まで。現在、全体の約半分が経過した段階です。現在、前半八年間を振り返り、これから後半八年間の運動へ向けての準備に入っているところです。

しかし、この運動も当初の構想とは内容において追加を余儀なくされました。言うまでもなく、その第一の要因は3・11東日本大震災です。一瞬の内に失われた二万人のいのち。破壊された大地。福島第二原発の事故による放射能汚染。まずは被災者の救援、大地の回復、そして、被災地の本格復興に向けての支援という問題に対処しなければならなくなりました。

また、別に、寺離れ、宗教離れという思っても見なかった時代の風潮の問題があります。この風潮により、寺院中心の教化活動が以前に比べてうまく行かなくなつたという深刻な問題が明らかになって来りました。

このような時代の状況の中で、宗門は教師の活動の場を寺院の中だけでなく、広く社会の中に見いだす方向に舵を切りました。社会で活躍する次の教師を育成するための教育にも力を入れることになりました。広く社会の現場で活動するためには、専門的な知識や技術などが必要であるからです。特に、この点については、アシスト募金事業を行っている当管内社会事業協会(四條衍明会長 富士宮市妙行寺住

職)が、教師の社会活動の推進という事業に乗り出す意欲を示しています。そして、以前に比べて檀信徒の皆さんの力をより多くお借りするという時代の要請もあります。今年、全国日蓮宗檀信徒協議会会長に池上幸保氏が就任し、前会長江守幹男氏が打ち立てた「檀信協は日蓮宗の応援団」という路線をさらに強く押し進める意志を示されました。特に、次の世代を担う若手檀信徒のリーダーの育成は欠くことができないこととしています。また、宗門も次世代檀信徒リーダーの育成に乗り出すことになりました。

宗門運動の個別のテーマに「伝える―次世代へのアプローチ」というものがあります。それは、宗門の教師の次世代育成の問題にも当てはまります。檀信徒の皆様にも伝えることで、お寺を護り、また、法華経と日蓮聖人の教えもすなわち、お題目を自ら唱え、人に伝えるお役を次の世代の人たちに継承してもらわなければ、宗門の未来はありません。親子、そして、お孫さんの三代にわたる信仰の相続ということは是非お努めいただきたいお願い申し上げます。

僧俗一体、寺檀和融、教師と檀信徒がお互いの協力のもとに、これからの宗門運動を推し進めることにご理解をたまわりたいと申し上げ、ご挨拶の結びとさせていただきます。

再拝

宗門運動
「立正安国・お題目結縁運動」平成34年3月31日まで

管区テーマ

『ひろめよう合掌の心』



いのちに合掌

日蓮宗静岡県中部宗務所

〒416-0901 静岡県富士市岩本2184-2 實相寺内 TEL0545-64-6668

開所日:月・木・金 10:00~16:00

http://www.myouhou.com/

静岡県中部宗務所檀信徒協議会総会

於 清水区 清水テルサ



◆一食一円アシスト募金継続中です。
ご協力をお願い致します。

と述べた。続いて貫名英舜所長(常泉寺住職)より「僧侶は自ら修行をして自らを作り上げ、任されたお寺を命がけで守り、弟子を残し、育て、後世へと伝えていくことが使命である」と挨拶の中で、僧侶たるもの檀信徒の教化だけでなく、弟子に信仰を引き継いでいくということの大切さを述べた。

議事に移り、平成二十四年度行事報告・決算報告、一食一円アシスト募金決算報告と続き、後藤会長による全国檀信徒協議会での報告が述べられ「教区・管区」で青年会を立ち上げ次世代を育てよう。次世代に信仰を継承していこう。ITを上手に活用していこう。宗祖御降誕八〇〇年に向けて意識を高めていこう」と皆の意識を高めるよう呼びかけた。更に平成二十五年度事業計画案・予算案が審議・承認された。

続いて、伝道布教に関し、社教会の四條会長(妙行寺住職)より「教師の社会参加を奨励し、檀信徒だけでなく、未信徒の方が法華經に触れる機会を増やしていきたい。写経用紙を新たに作成したので、今後大いに活用していただきたい」との報告があった。



学び、共に情報を共有し合えた有意義な総会となった。

お知らせ

一、身延山大学公開講座開催のお知らせ

日時 平成二十五年十一月七日(木)
午後二時より

場所 富士市交流センター

※詳細は決定次第ご案内致します。

二、「合掌の心」(ラジオ法話)のご案内

毎月第一、第三水曜日、午後4時20分より

ラジオエフ(FM放送:84.4Hz 富士・富士宮地区限定)

※エリア外、聴き逃しについては、当宗務所ホームページにて何時でも聴くことが出来ます。

六月十八日(火)、静岡市清水区「清水テルサ」に於いて、管内寺院・教会・結社檀信徒代表者・宗務所関係者が出席し、平成二十五年度静岡県中部宗務所檀信徒協議会総会が開催された。

総会に先立ち、檀信徒を代表し、後藤幸雄会長(吉祥寺護持会長)が挨拶し「檀信徒は宗門の応援団。次の世代に信仰を継承していくのが我々の使命。朝晩と一心にお題目を唱えましょう」

基調講演法話

静岡県中部宗務所副長「中條曉秀上人」(清水区本能寺)

法華經に学ぶ



(一)「駿河御書類聚」

まずは、昨日(六月十七日)発行された『駿河御書類聚』について申し上げます。

日蓮聖人が在世当時、駿河の国には三十八人もの檀越が在住し、その方々へ様々な「消息(手紙)」が与えられた。その「消息類を、繁を刈り要を摘み、日巻りの体裁にしたのがここに『駿河御書類聚』である。ご承知のように駿河の国

は、私達の日蓮宗静岡県中部宗務所と同、西は大井川から東は沼津・御殿場までの範囲をいい、古来から駿河七郡と称した。なぜ「駿河」というのか。その淵源は遠く『駿河風土記』に溯る。しかし原本はない。ないが江戸初期の歌人の下河辺長流(しもこうべながる)一六二七(八六)の『枕詞燭明抄』に「風土記に云く、国に富士河在り、其水きはめて猛く疾し、よって駿河の国となづく」とあることよって明瞭。河の流れを「スルドイ」の意を以て、「駿河」名づくの謂である。お求め下さい。

(二)法華最勝とカルピス

日蓮聖人は法華經のことを「最勝」と形容する。「最勝」とは「最もすぐれている」の意である。この最勝の法華經(フルネームは妙法蓮華經)を日蓮聖人は「醍醐味」(この上なき)「い珍膳」という。つまり「釈尊の最上の真実の教え」という意味である。

閑話

乳酸飲料の「カルピス」は三島海雲(真宗の人)という坊さんが造り、醍醐味の梵語名「サルピス」の「サ」を「カ」に転じ、「カルピス」とネーミング、「初恋の味」という語を添えて、売り出し、大ヒット。これが「カルピス」の淵源である。

(三)最勝の法華經に学ぶ

京都にある大本山妙顕寺、その初祖の日像(一二六九〜一三四二)上人は、八歳の時、身延山に在した日蓮聖人の膝下にあつて、お経を教えていただいた。その最初のお経が皆様ご承知の「欲令衆」である。このことは『童華秘書』(宗全十九巻)に詳しい。当時八歳とあるから、今日でいえば六歳、今の小学一年生。正に就学年令である。

「欲令衆」は法華經の要略である。「方便品(第二)」、「譬喻品(第三)」、「法師品

(第十)」、「宝塔品(第十一)」の四經文から大切な部分を日蓮聖人が抜粋、まとめたものである。

方便品

「仏知見」を「開・示・悟・入」する。四つ集まった「仏知見」が「智慧」である。「智」は分析力、「慧」は総合力のこと。

譬喻品

「生老病死の憂患あり」とある。この生老病死のことを「四苦」といい、人間の持つ「四つの根本的な苦しみ」のことをいう。これに「愛別離苦」・「怨憎会苦」・「求不得苦」・「五陰盛苦」の四苦を加えると「四苦八苦」となる。

法師品

「変化の人を遣わして、これがために衛護となさん」とある、「変化の人」がポイ

ント。「変化の人」とは誰か。例えば、千円札で有名な野口英世博士の珠玉の一文がある。博士は綴る「神仏のご真像は吾々の目に見えぬもの、只恩人たる人の手を経て発現せらるものと信じ候」と。「野口博士とその母」序文と。

宝塔品

「釈迦牟尼世尊、所説のごときは皆これ真實なり」のところ、これは經文上では表現されていないが、証明するという役目を担った多宝如来が、釈尊が説かれた法華經を「皆これ真實なり」と証明するのである。

「証明」は現代社会にあつては必須のもの。その「証明」というものの考え方が、すでに釈尊時代に確立していたとは驚きである。

(四)むすび

法華經は素晴らしく、学ぶところ多い。